

特定非営利活動法人  
エイブル・アート・ジャパン

A B L E  
A R T  
J A P A N

2019 年度 事業報告  
[期間：2018 年 4 月 1 日～2019 年 3 月 31 日]

2019 年 6 月 23 日

## ■2018 年度 事業報告

### [プロローグ]

障害のある人たちによる芸術活動は、全国各地で大変活発になっています。その背景には、法の整備の追い風をうけて（障害者権利条約批准・障害者差別解消法施行）、障害者の芸術文化活動支援センターが都道府県ごとに設置されつつあることや、2020 年に開催される東京オリンピック・パラリンピックを契機にしたスポーツ・文化活動の興隆により、社会の関心度が増していることです。

しかし、全国の現場からは、この状況を危惧する声もきこえてきます。芸術活動それ以前に、働き手不足の余波は福祉の現場を覆い、日常のケアの維持すら困難な状況になっていること、また 2018 年度の障害福祉サービスの報酬改訂により福祉の現場に一層の成果主義が蔓延してきていること、東京と地方とでは芸術活動の発表の機会や情報に格差がありそれがさらに大きくなっていること、2021 年以降には政策や民間支援が大きく縮小していく危機感があるということなどです。

そこで、私たちエイブル・アート・ジャパンは、活動の促進に伴走する一方で、2018 年度はいったん立ち止まり、私たちの組織が今後の社会に向けて、何を理念とし何を実践するのか。その骨格を、役員と会員とが場をもち議論する年としました。

今一度あらためて、人間が人間として生きるために必要な道具・技術としての芸術文化の役割に注目すること、そしてこれらの実践の芽は会員やネットワーク団体の仕事のなかにあり、その実践や情報を丁寧にみつめそこで生まれた知見や智恵を全国の仲間とわかちあうこと、さらにはこのような問題意識をもち、しなやかに社会提案をすることができる人材の育成を行う必要性を持つに至りました。

### ●NPO 法人エイブル・アート・ジャパンの中期ビジョン 2019-2021 をつくります

- (1) 2018 年度 役員・会員・それに準ずるメンバーでタスクチームをつくる  
秋の理事会で協議、それに基づいた組織の仕組みや役員の改選を検討する
- (2) 2019 年度 中期ビジョンの提案と実施（-2021 年度）
- (3) 2021 年度 NPO 法人エイブル・アート・ジャパン法人化 10 周年

### ●中期ビジョン策定のためのタスクチームをつくり提案します

#### (1) スタディツアー企画開発チーム

現在の急激な社会の変化のなかで、芸術文化に役割を見出し豊かな活動を展開する福祉アトリエなどへの体験型旅行を企画する。

対象：障害のある人の芸術活動に関心がある一般の人。企業の CSR 研修としても提供していく。

#### □ 基づくミッション⇒《Network つなぐ・つながる》

障害のある人たちとエイブル・アート・ムーブメントに興味のある個人、福祉施設、NPO、芸術文化関係者・団体、教育関係者・団体、行政、企業、地域コミュニティなどをつなぎ、未来を切り開くためのネットワークを構築します。

- 生み出す資源⇒ツアーにより各地の福祉アトリエにファンが生れる。法人は会員へのサービス、事業化の検討を実施する。

## (2) 人材育成事業チーム

2年に一度集まり、セクター会議のようなものを開催する案を検討する。エイブルアートのミッションを確認し、社会変革につながるような活動の事例を学び、それを自団体および地域に持ち帰るようなイメージで仕組みをつくる。

対象：社会福祉施設職員、福祉NPO、アートNPO、自治体関係者ほか

### □ 基づくミッション⇒《Create つくりだす》

さまざまな立場の人やグループ・団体が出会い、交流する機会をつくり、社会変革につながる共感や感動を生み出します。障害のある人によるアートを基軸としながら、今の社会に求められる新たな価値を創造します。

### □ 生み出す資源⇒研修事業により情報を集め、それらを会員および各地の「障害者芸術活動支援センター」に提供する。

## (3) アーティストを活用したスクール事業の検討チーム

障害のあるアーティストがトークイベントや講師で招聘されることが増えています。とくに当事者だからこそ話せる内容の重み、またときにチャーミングな特性はタレントとしての魅力に満ちています。

対象：大学、私立の高校などへの提案を検討します。

### □ 生み出す資源⇒障害のあるアーティストの活躍の場と仕事をつくりま

□

| 2016年度<br>(1年目)   | 2017年度<br>(2年目)  | 2018年度<br>(3年目)  |  | 2020年度<br>(5年目)   |
|---|--|--|--|---|
| 総収入<br>36,925,501円<br>総支出<br>34,570,490円  | 総収入<br>33,427,991円<br>総支出<br>33,511,157円   | 予算<br>総収入<br>24,620,000円<br>総支出<br>30,148,000円                       | ▼決算<br>総収入 27,585,067円<br>総支出<br>28,162,472円   | 総収入<br>5,000万   |
| 収入内訳：会費<br>84万(2%)、<br>自主企画858万<br>(20%)、協<br>働・受託2,327<br>万(60%)、寄<br>付216万<br>(6%)、その<br>他206万<br>(5%)他 | 収入内訳：<br>会費94万(3%)<br>自主企画694万<br>(20%)、協働・受託<br>2,162万(65%)、寄付<br>196万(6%)、その他<br>194万(6%)他 | *中期ビジョン<br>策定の年<br>*自主事業開発<br>の準備<br>*体制変更の移<br>行期                   | 収入内訳：<br>会費101万(4%)<br>自主企画463万(17%)<br>協働・受託1,873万<br>(68%)<br>寄付104万(4%)<br>その他218万(7%)他 | 収入内訳：<br>自主事業<br>60%<br>(3,000<br>万)<br>受託事業<br>40%<br>(2,000<br>万) |
|   | 支出における人件費割<br>合：11,748,03(35%)   |  | 支出における人件費割<br>合：9,154,890(33%)   | 人件費<br>1,500万   |
| 損益2,213,008<br>円<br>前期繰越<br>4,436,328円<br>期末繰越正味財<br>産額6,649,336<br>円                                     | 損益▲83,166円<br>前期繰越6,637,436円<br>期末繰越正味財産額<br>6,412,270円                                      | 損益▲5,528,000<br>円<br>前期繰越<br>6,412,270円<br>期末繰越正味財<br>産額<br>634,270円 | 損益▲719,404円<br>前期繰越6,412,270円<br>期末繰越正味財産額<br>5,692,866円                                   |   |

#### (4) 東日本大震災以降生れた東北事務局の組織的自立を目指すチーム

東北事務局の役割を検討し、組織としての再編を検討していく作業を実施します。

東北での活動は、人が生きることを支えるアートの役割・アートによる仕事づくり・芸術文化による地域創生などの問題に向き合いつづけるものであり、今一度「エイブル・アート・ムーブメントとは何か」を問う貴重な現場でした。

□ 生み出す資源⇒法人が生み出した財産、東北地域の核となる団体会員に。

#### ●組織の財政基盤の確立へ（2016年度より継続）

自ら考え、行動し、新しい組織文化をつくるチーム体制をめざします。5年間で事業規模を5,000万規模にし、常勤3名のスタッフを雇用できる組織にしていきます。

▼成果と課題：代表理事兼事務局長の介護等による居所移動（7月）、事務局長補佐の退職（9月末）により、10月に一部の役員で緊急会議。2018年度は最低限の活動にとどめるとした。中期ビジョンの提案は2019年度に持越しとなる。

#### 【スタッフ体制】

##### ●東京事務局

・塩見佑子（常勤/2018年2月～9月）

滋賀の大学で音楽教育・美術教育を学び、約10年間大阪の障害者支援施設で働く。前職在職中、たんぼぼの家のセミナーに参加していた。2018年2月から事務局長補佐。▼2018年9月末退職

・中塚翔子（常勤/2016年7月～）

学生時代、Good Job! Exhibitionを見て障害のある人のアートに興味を持つ。一般財団法人たんぼぼの家所属。主にエイブルアート・カンパニー事業に従事。

・内野悦子（非常勤/2015年9月～）

東京・東北事務局の経理、労務をサポート。月8日程度勤務。

・近田明奈（非常勤/2017年4月～）

美術教育を学び、障害のある人のアート作品公募展の立上げと運営に関わる。その後、アート系NPO ARDAでアートワークショップのコーディネーターをする中で、縁があり墨田区の「みんな北斎プロジェクト」に参加。2018年度「みんな北斎プロジェクト」プロジェクトスタッフ。

・平島朝子（インターン/2017年4月～）

「人と人とのつながりが希薄な今の社会で、どうすれば支え合って生きていけるだろうか」と考えていた折、たんぼぼ運動の歴史にヒントがあるのではないかと思い、「たんぼぼの家」「エイブル・アート・ジャパン」に来るようになる。大学院博士課程在籍。研究会主宰、広報・ウェブサイト等支援。

・北田郭時（非常勤/2018年10月～）

元たんぼぼの家スタッフ。現在は振付家の香瑠鼓の事務所にて、振付家のマネジメント、ダンサーのキャスティングデスク、シニアや障害のある人をインクルードしたワークショップや公演の制作等に関わる。広報・ウェブサイト等支援。

## ●東北事務局

・佐々木えりな（非常勤/2015年4月～）

福祉と仕事の新しい関係を紹介する [Good Job!Document]（一財・たんぼぼの家発行）に感銘を受け、2014年夏にエイブル・アート・ジャパン東北事務局を訪問。その後、福祉施設の商品開発事業、研修事業、販売会をサポート。障害のある人の個性や潜在能力を生かす、また個性を発揮する環境づくりに関心がある。月8日程度勤務。

・三澤一弥（非常勤/2017年12月～3月）

宣伝美術家・パフォーマー。1992年生、山形県出身。仙台市在住。大学在学中に演劇と出会い、パフォーマンスアートに関心を寄せるようになる。仙台を拠点にした活動の傍ら、2016年度より劇団短距離男道ミサイルに所属。以降、同劇団の公演広報媒体のメインビジュアルのデザイン等を担当。2017年度のSOUP 舞台制作事業への出演を契機に、障害のある人の作品に関心を抱く。▼2018年3月末活動終了

・坂部認（非常勤/2018年10月～）

障害者福祉施設の職員として、アート活動の企画・ディレクションを5年間担当。2017年より、同理事。拠点を持たずに活動するコーディネートチーム「TANE」のプログラムディレクターとして、福祉事業の企画運営を行なっている。ジャグリングとアジアの舞踊・芸能を得意とする大道芸人でもある。月8日程度勤務（通信教育で社会福祉士取得中）

▼成果と課題：2019年3月末現在、東京事務局は常勤職員1名・非常勤スタッフ3名（総務1・プロジェクト1・インターン1）、東北事務局は常勤職員1名・非常勤スタッフ2名（総務1・プロジェクト2）の体制である。東京は事務所開設日を縮小・公開し、これまで対応してきた電話や来所の無償相談を減らす方針とした。

中期ビジョンの策定とともに、どのような事業を行い、どのような人材を置くのかを見極めることが事務局・役員に求められている。

## ■事業内容

### [総務]

#### 1. 会議等の業務

##### （1）第8回通常総会の開催

日時：2018年6月23日（土）13：00～14：15

会場：A/A gallery 内（東京都千代田区外神田 6-11-14 アーツ千代田 3331）

- 2017年度事業報告（案）・活動計算書決算（案）の承認
- 2018年度事業計画（案）・活動計算書予算（案）の承認 ほか

##### （2）理事会の開催

◎第15回：2018年4月19日（木）18：30～20：30

会場：A/A gallery 内（東京都千代田区外神田 6-11-14 アーツ千代田 3331）

- 2017年度事業報告（案）・活動計算書決算（案）の承認
- 2018年度事業計画（案）・活動計算書予算（案）の検討 ほか

▼理事会（秋開催予定）は実施していない

## 2. 会員に対する業務

- 会員の入会、継続、休会に伴う業務
- 2017 年度事業報告・活動計算書および 2018 年度事業計画（案）・活動計算書（案）の送付
- ニュースレターと事業案内を発送（年 4 回程度）

## 3. 経理などの業務

- 資金管理として、現預金などの日常の管理状況を明らかにする。顧問契約は、よしとみパートナーズ会計事務所（東京）
- 運営基盤の確立のために月次ごとの収支計画をたて、確実に遂行
- 税務に関する業務として、法人税や消費税、源泉徴収税等の税務関連の業務

## 4. 労務管理などの業務

- 法人でスタッフを雇用する。給与規定に沿った賃金の支払、労災保険/雇用保険/社会保険/退職金共済制度への加入→▼民間の生命保険会社のサービスに加入。職員の疾病に際した補償、退職金積立
- 法人に関連する業務を行うスタッフの労務面等において配慮
- 各種規程・規則の変更を検討、職員給与の検討→▼実施できていない
  - セクシュアルハラスメントの禁止
  - 職員の休日
  - 個人情報の適正な取り扱いに関する基本方針
  - 教育訓練

## 5. 総務関連などの業務

- 業務運営に必要な届出業務
- NPO 法人としての東京都への 2017 年度事業報告・活動計算書の提出（総会后 6 月末日まで）
- 当法人に依頼がある後援名義の借用等の検討と対応

## 6. 広報・寄付キャンペーンなどの業務

- ウェブサイト、フェイスブック、データベースを活用した広報活動  
▼成果と課題：東京事務局は、ウェブサイト月 1 回更新・34 記事掲載、フェイスブックは 179 投稿。東北事務局は、ウェブサイト適宜更新・30 記事掲載、フェイスブックは 48 投稿。会員および名刺等からなるデータベースを活用した一斉メール（3000 件程度）は年 5 回程度実施。
- 寄付キャンペーンの実施、会員増員のキャンペーンの実施→▼実施できていない
- データベースの活用：組織内で運用方法のルール化をすすめる。個人や団体に付属するカテゴリーの整理、スタッフが名刺交換した人たちのデータの一元管理、寄付への呼びかけやキャンペーン案内、セミナーや展覧会情報などの発信・申込み管理などを実施。  
▼成果と課題：インターン 1、ボランティア 1、プロボノ 1 名によりデータベースへの登録がすすみ、また一斉メール配信ができるメンバーが増えた。

## 7. その他

- 複数の NPO が事務所を共有する場合のルール見直し～地代家賃、賃借料、通信費、営業報酬や人件費→▼2019 年 5 月 21 日にエイブルアート・カンパニー 3 事務局会議を実施し 2018 年度の取り扱いについて協議した。

## [企画事業]

### 1. A/A gallery 事業

#### ◎ 方針

- A. エイブル・アート・アワードの受賞者や希望する作家等の原画販売
- B. エイブルアート・カンパニー/Good Job!事業のショールーム的機能をもたせた企画・販売
- C. エイブル・アート・ムーブメントの発信拠点として重要なテーマの発信  
「障害とアート」の多様性をみせる展示、「アートと社会」の関係性をみせる現代的なテーマなど
- D. 会員および関連する個人・団体が多様な表現や試行を発信する場

#### ◎ 運営のサイクル

- ・基本的には木・金・土・日にオープン。3週間～1カ月単位のサイクルを維持する。
- ・貸し事業の際は、随時相談。
- ・夏季休暇、年末年始休暇あり。

#### ◎ 内容

| 時期   | 実施内奥   | 分類 |
|------|--|----|
| 6月   | 第49回企画展「豊色の眼」<br>6/1(金)-24(日) A/A ギャラリー<br>6/23(土) ギャラリーツアーと映像上映(総会開催企画)   | C  |
| 7-8月 | T-shirt collection 2018<br>7/6(金)-8/5(日) A/A ギャラリー   | B  |
| 12月  | エイブル・アート・アワード「展覧会支援の部」<br>20周年記念展<br>(連動企画・第50回企画)<br>12/13(木)-23(日) A/A ギャラリー<br>*12/17(月)-22(土) ガレリア・グラフィカ bis | A  |
| 3月   | 第51回企画展「アニメで墨田！」<br>3/1(金)-3(日) A/A ギャラリー  | A  |
|      | エイブルアート芸術大学グループ展「人生スクランブル交差展」<br>3/8(金)-17(日)[12(火)は休廊] A/A ギャラリー  | D  |

#### ● 特記1：会員による自主企画展

全国の会員や活動実践者のみなさんからの発信事業枠を設ける。外部パートナーとの原画販売事業。

#### ● 特記2：企画や作品の巡回

国内外のネットワーク団体と企画展、作品の巡回の機会をつくる。

▼成果と課題：業務の多くが事務所のあるアーツ千代田以外の場所での展開になってきた。また職員体制の問題により、10月の役員会議で無理に企画は実施しないと確認しようとした。エイブルアート芸大の展覧会の運営の際は、参加者およびボランティアが自主自立の精神で運営できるよう依頼した。結果、展覧会を開催する大変さを経験しながらも、達成感やメンバー間の強いつながりも生まれたと考える。

## 2. A/A shop 事業

- A/Agallery 事業と連動した商品を取り扱う。
- セミナーに参加してきた関東・東北の福祉施設の商品の販売の機会をふやしていく。
- Good Job!センターと連携して商品の仕入れ・販売を行っていく。A/A gallery でのTシャツ展などでの販売事業を継続。



▼成果と課題：東京事務局常駐スタッフ減により最低限の実施とした。東北事務局は、事務所移転記念のTシャツ展、せんだいクラシックフェスティバルなどの他団体との連携事業を実施した。



## 3. エイブルアート・スタジオ事業

### ◎ 方針

- A. 運営委員会による独立採算事業を実施する。
- B. セミナーやサロンなど、人が集う場や企画を実施する。

アトリエ活動 会場：アーツ千代田 3331 B105 (レンタルスペース)

|                 |                      |                          |                                    |
|-----------------|----------------------|--------------------------|------------------------------------|
| アトリエ・ポレ<br>ポレ   | ファシリテーター<br>サイモン順子さん | 毎月第2、4土曜日<br>13:30～17:00 | 登録メンバー：25人<br>年会費 5,000円 1回 2,500円 |
| エイブルアート<br>芸術大学 | ファシリテーター<br>中津川浩章さん  | 毎月第2日曜日午後<br>14:00～17:00 | 登録メンバー：30人<br>年会費 3,000円 1回 2,500円 |

▼成果と課題：東京事務局常駐スタッフ減により、エイブルアート芸大にも核になる運営サポーターを置くことを協議した。結果、現在、参加者家族1名、ボランティア2名のいずれかが、会場・画材・参加者・参加費・ボランティアや見学の受け入れ管理を行うように試みている。



## 4. エイブルアート・カンパニー事業

### ◎ 方針

・「障害のある人のアートを社会に発信し、仕事につなげる事業」の窓口として活動を展開する。2018年度はかねてより増加傾向にある付加価値商品に関わる著作権使用、商品販売の機会を営業提案に結びつけるほか、アーティスト参加型のプログラム開発は継続。

### ◎ 内容

- (1) 基盤整備
  - 既存ウェブサイトの活用促進。



・AAC ウェブサイトはトップページを関西、実績ページを東京で分担して更新中。Facebook ページは 72 投稿、約 60000 ビュー。このうち 8 割は東京事務局が担当している。

・ウェブサイトの改変への着手。データベースやシステムの変更等を含め検討していく。

▼ウェブサイト改変は未着手

## (2) 著作権マネジメント

● 著作権使用部門の売上を伸ばす試みのほか、取引先企業と継続したパートナーシップを結べるよう、日常的な情報配信に力を入れる。

● 継続採用を見込んだ企画では、積極的な描き下ろしやアーティスト参加イベント等付随企画など、クライアントの満足度を上げる提案を行っていく。

▼アーティスト参加型企画（ライブペイント）1 回、著作権使用に関連したワークショップ 1 回

● 今後依頼増が予想されるテーマについては、新規案件獲得に向けて事前に描き下ろし作品を募集しデータをストックする。

▼2020 年に向けて描き下ろした作品での提案は 300 万円程の著作権使用に繋がった

▼成果と課題：オリンピック・パラリンピックに関連する企画では約 700 万円の売上があるなど、社会的な背景を生かしてアーティストの仕事づくりを行った。全アーティスト 113 人中 90%のアーティストに何らかの仕事が生まれた。アーティストの能力を生かした人材研修の依頼があり、東京都近郊在住の精神障害のアーティストが参加し、2019 年度も引き続き事業化を検討しているほか、アーティストによってはデザイン使用以外の仕事も受け始めているが、在住地や障害の程度によって仕事に差が生じている。

本部事務局での IoT と Fab の取組との連携や、著作権使用以外の標準価格の設定などで仕事の枠組みを広げていけたらと考える。

**\*オリパラ系企画である JAGDA つながりの展覧会 Part 1 では約 60,000 本を売り上げ、パラリンピアンズ協会に 300 万円程の寄付を拠出した。**

JAGDA つながりの展覧会 Part 1 マスキングテープ

愛知\*：4/28(土)-5/6(日) 名古屋デザインホール「mt 10th Anniversary in Nagoya」内

東京：4/28(土)-5/13(日) 銀座ロフト 5F ワーク&スタディ

奈良：5/8(火)- Good Job! Center KASHIBA (販売のみ)

石川：6/15(金)-17(日) 石川県産業展示館 1 号館「2018 金沢ペーパーショウ」内

大阪：6/29(金)-7/17(火) 梅田ロフト 5F ロフトフォーラム「文房具の女子会」内 (販売のみ)

東京\*：7/27(金)-8/7(火) TABLOID「mt 10th Anniversary in Tokyo」内

宮城：7/27(金)-8/16(木) 仙台ロフト 5F 文具売場「文房具の女子会」内

高知：8/8(水)-12(日) 高知市文化プラザかるぼーと 7F 市民ギャラリー第 1・第 2 展示室「四国素展～芸術資本宣言～」内

北海道\*：8/17(金)-30(木) 札幌駅前地下広場 北 3 条交差点広場 (西)「mt 10th Anniversary」内

神奈川：9/11(火)-10/1(月) 横浜ロフト 7F ロフトマーケット「文房具の女子会」内 (販売のみ)

鳥取：9/22(土)-24(月) 青翔開智中学高等学校「学園祭 青開世界」

大阪\*：9/28(金)-10/11(木) 大阪市中央公会堂「mt 10th Anniversary」内

広島：10/2(火)-8(月) 広島三越 8F 催物会場

岩手：10/27(土)-11/3(土) Cafe & Living Uchida 3F Our Glass

静岡：11/16(金)-18(日) Any 1F 展示・販売スペース

神奈川：12/7(金)-9(日) ラゾーナ川崎プラザ 2F SABON 横

静岡：12/8(土)-9(日) ツインメッセ静岡「クリスマスフェスタ 2018」内

兵庫：12/26(水)-1/14(月) 神戸ロフト 4F 文具雑貨売場

東京\*：1/10(木)- mt lab.「チャリティーテープ展」内

香川：2/1(金)-3(日) 穴吹デザインカレッジ「デザイン展'19」内

北海道：2/16(土)-3/7(木) 札幌ロフト 6F ロフトマーケット「文房具の女子会」内

主催：公益社団法人日本グラフィックデザイナー協会

\*=カモ井加工紙(株) 主催イベントでの販売



### (3) 商品販売・流通

- 流通事業は2016年度よりエイブルアート・カンパニーからGood Job! センターに移行。
- エイブルアート・カンパニーでは、企業内マルシェへの出店や、ノベルティの企業買取りといった著作権事業とあわせた営業を引き続き強化。
- ▼2018年度はMHD モエ ヘネシー ディアジオ、武田薬品工業、トヨタ自動車他、JAPAN 市にエイブルアート・カンパニーとして出店

### (4) メイク講座

障害のある人のメイクや身だしなみを支援する、ハーバー研究所との共同開発事業。

- 定例講座「スキンケア&メイク講座」@ハーバー銀座館
    - ・「基本コース」/定員10名/年3回
    - 6/2(土)、9/1(土)、3/9(土)
    - ・「チャレンジコース」/定員10名/年2回 \*髪型やファッションについても学ぶことができる
    - 7/8(日)、10/14(日)
  - 出張講座：女性は「基本のスキンケア&メイク講座」、男性は「基本の身だしなみ講座」
- 就労支援系の福祉事業所のほか特別支援学校に出張して開催  
定員：20名程度/年6回（おおむね3か月毎に2~3団体）  
3/4(月)板橋特別支援学校ほか



- コーチング講座：福祉や医療の現場のケアラーを教育する新しい講座  
ジョブコーチや介護士などを対象。ハーバー研究所のビューティプロデューサーの質の高い講座のメソッドを言語化・視覚化したテキストを活用し実施。定員：10名程度/年1回
  - その他：各種学会、業界イベントなどでの啓蒙活動や、パラリンピック選手のメイク応援プログラム等。
- ▼成果と課題：講座は全5回、出張講座は全5回の実績となった。特記すべきは、支援者向けセミナーで、障害のある人を200名以上雇用する大手エンターテイメント会社の社員・ジョブコーチ向けに研修を実施できたこと。研修内容と職員の意識レベルが合致し、満足度の高い事業となった。

### (5) その他→活動計算書ではカンパニーから分離し、(6) 企画事業で計上している。

- アーティストトーク&マナーアップ「Art de Vivre Program」
    - ・2018年度も法人会員のMHD モエヘネシーディアジオとアーティスト参加型プログラムを年2回程度実施。
- 2018年7月26-27日にルイヴィトン表参道店で社員とアーティストがアート鑑賞・交流を行う「3eme Art de Vivre Program」実施、アーティスト6組、社員約100名が参加。
- 2018年2月24日に福島県相馬市のLVMH子どもアート・メゾンで相馬市の親子向けイベント「アートであそぼう」にてワークショッププログラムを実施。子ども15名を招待、相馬市市報にも掲載。

▼成果と課題：昨年度から協働している法人会員 MHD モエ ヘネシー ディアジオ株式会社の意向で、LVMH グループが所有している施設を活用する企画を行った。表参道の3eme Art de Vivre Programでは昨年度の倍以上の社員参加があった。社内向けの製品にアーティスト作品を採用するなど著作権使用の取組への波及もみられたが、仏本社が強く進めているエコ・環境への配慮から、アーティストの作品を使っているとはいえ、新たに製品を作ることは社内でも様々な声があった。CSR チームと意見交換をし、2019年度はアーティストと社員が出会い交流する意義や効果を再検討していく。

- ユニバーサルキャンプ inTOKYO 2018
- NPO 法人ユニバーサルイベント協会、丹青社企画・運営の「ユニバーサルキャンプ」に昨年度に続き参加。Good Job!プロジェクト、「IoT と Fab と福祉」展、ワークショップを行った。
- 4/27(金)-28(土) 品川シーズンテラス
- ▼成果と課題：Good Job!プロジェクト、「IoT と Fab と福祉」の活動を企業関係者に知っていただく機

会となり、またワークショップの企画運営・製作を Good Job!センターに発注することができた。

## 5. 鑑賞支援事業

- 「美術と手話」プロジェクト（中心メンバー6名）による定例会議（月1回）の開催、美術館との鑑賞プログラムの実施。新しい協働者とのネットワーク化等に取り組んだ。
- 「美術と手話」プロジェクトのウェブサイトを活用。自主事業の発信とともに、美術館（森美術館、東京都写真美術館、東京都現代美術館、世田谷美術館）から依頼のあった情報掲載などに対応した。

### (1) 自主事業

トークサロン「きこみゆ」10/16 (A/A ギャラリー)  
美術と手話・「課外活動」11/10 (東京現代美術館)  
トークサロン「きこみゆ」2/3 (A/A ギャラリー)

### (2) プロジェクトの協働

茅ヶ崎市美術館「美術館へつづく道」

### (3) 手話通訳の提供

東京ミッドタウン・デザイン部「JAGDA つながりの展覧会」  
4/20 (東京ミッドタウン)  
二子玉川公園「日本庭園ちよこっとガイド」9/9 (二子玉川公園ビジターセンター)  
日本財団ミュージアム・オブ・トゥギャザー サークス展 9/15.16.17 (渋谷ヒカリエ)  
ダイバーシティアート「対話型アート鑑賞会」2/28 (株式会社丹青社・本社クリエイティブミーツ)

### (4) その他の活動

「ユニバーサルキャンプ TOKYO2018」美術と手話プロジェクト活動紹介展示 4/27.28 (品川シーズンテラス)



▼成果と課題：聞こえない人・聞こえにくい人、聞こえる人との違いや感覚をもっと気軽に知るための場づくりを目的に、トークサロン「きこみゆ」をスタートした。また 2017 年度に整備したウェブサイトを活用し、活動の理念や実践を発信したことにより、美術館や文化施設からの問い合わせが増え、2019 年度に向けて企画や協働の機会が増加しつつある。

## 6. 企画制作事業

### 関東エリア

#### (1) モノづくりサロン 2018 (自主事業)

2017 年度に続きシンポジウム開催。その後、関東の施設職員を対象とする講座を実施。

主催：モノづくりサロン実行委員会、活動のパートナーは前川亜希子さん（デザイナー）、加藤未礼さん（コミュニケーションデザイナー）、河原レイカさん（編集者）、三田大介さん（すみだクリエイターズクラブ）、高野賢二さん（ラまの）、柊伸江さん（デザイナー）、猪股春香さん（コーディネーター）ほか。  
モノづくりサロンシンポジウム～福祉がつくる暮らしの未来 2018

主催：モノづくりサロン実行委員会、NPO 法人エイブル・アート・ジャパン 後援：東京都

11/23(金祝) 日本財団ビル 8F 参加者：51 人 ※9/30 が台風で延期となったため 11/23 に順延。



▼成果と課題：モノづくりサロン実行委員会を昨年度シンポジウム実施後に再編成。視点が多様化した一方で、それぞれのやりたいこと、実行委員会のできることの整理が必要となったほか、助成金がなくなったため、自主財源の確保が課題となった。2019年度は、実行委員会が持っているスキル・知見を生かした持ち回り型の企画を実施し事業としての自立をはかる。

## (2) 墨田区「みんな北斎プロジェクト」今年はアニメでオリンピック！ (受託事業)

すみだ北斎美術館の会館記念プロジェクトとして平成 28 年度にスタート。1 年目は墨田区主催で全国障害者アート公募展「みんな北斎」(応募作品総数 1,514 点、墨田区からの応募 103 点)を、2 年目は障害のある人のアート活動においてはまだ例の少ないアニメーション作りを通して、多様な参加方法と協働の可能性を探った。平成 30 年度も、2020 年(平成 32 年度)に計画中の大規模企画に向けた墨田区内のさらなる気運醸成と、障害のある人が区内で文化・表現活動できる機会を増やし、活躍の環境と循環をつくることを目的として、区内施設でアートワークショップを実施。

・墨田区内で訪問型ワークショップを実施：学校で 4 回、福祉施設で 2 回、北斎美術館 1 回：2018 年 9-12 月

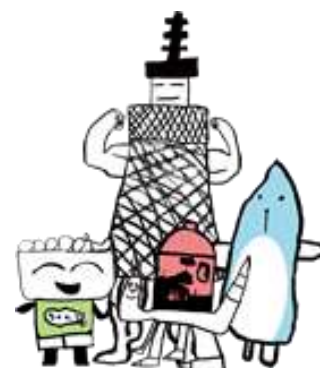
・ワークショップの成果物を北斎美術館 講座室で展示：2019 年 2 月  
主催：墨田区、企画・運営：NPO 法人エイブル・アート・ジャパン



### ●ワークショップ

中学校と美術館ではアニメーションに登場するキャラクター(選手)のデザインと声の録音、小学校ではアニメーションに登場するキャラクター(応援団)のデザインと声の録音、福祉施設ではアニメーションの背景素材になる絵画制作を行った。

| 開催場所<br>(学校については特別<br>支援学級対象) | 実施日           | 参加者・<br>来場者数 | 施設職員<br>(教員、介助員、<br>生活支援員) | プロジェクト<br>スタッフ・<br>関係者 |
|-------------------------------|---------------|--------------|----------------------------|------------------------|
| 墨田中学校                         | 2018/9/6(木)   | 4            | 4                          | 8                      |
| 本所中学校                         | 2018/9/7(金)   | 13           | 5                          | 8                      |
| 第二寺島小学校                       | 2018/10/20(土) | 14           | 4                          | 7                      |
| 隅田小学校                         | 2018/10/24(水) | 7            | 3                          | 7                      |
| NPO 法人のぞみ<br>肢体不自由児者通所訓<br>練所 | 2018/10/26(金) | 11(見学 1)     | 8                          | 7                      |
|                               | 2018/11/2(金)  | 8            | 7                          | 7                      |
| すみだ北斎美術<br>館                  | 2018/12/2(日)  | 64 キャラ       | 数名<br>(投票のみ等)              | 9                      |
|                               | 合計            | 121          | 31                         | 53                     |



●投票

応援したいキャラクター(選手)への投票も実施し、結果はストーリーに反映された。2018/11/27(火)～12/16(日)の間、ウェブサイトの他、北斎館ワークショップ、墨田区役所にて受付。参加者数は114名。



●展覧会

完成したアニメーションの上映とドキュメント報告を行った。2/10(日)には中学校教諭とプロジェクトスタッフによるトークを行い、岡山県の福祉施設職員など様々な参加者と意義と課題を共有した。

| 開催場所                           | 期間   | 鑑賞者 | スタッフ |
|--------------------------------|--|-----|------|
| すみだ北斎美術館                       | 2019/2/9(土)～11(月祝)<br>(2/10(日) スペシャルトークイベント) | 349 | のべ25 |
| A/A gallery<br>(アーツ千代田 3331 内) | 2019/3/1(金)～3(日)                             | 168 | 3    |

●アニメーションの配信

投票を呼びかける告知アニメと、完成した本編アニメーションはウェブ(Youtube)や墨田区内の下記施設で公開された。

| 内容                      | 期間                         | 公開場所               |
|-------------------------|----------------------------|--------------------|
| 告知アニメ                   | 2018/11/26(月)～             | Youtube (墨田区公式ページ) |
|                         |                            | 東京東信用金庫 (68 店舗)    |
|                         | 2018/11/30(金)～2019/1/15(火) | 浅草東武ビジョン (約8回/1時間) |
| 本編アニメ<br>(浅草東武ビジョンは短縮版) | 2019/3/17(日)～              | Youtube (墨田区公式ページ) |
|                         | 2019/4/1(月)頃～              | 浅草東武ビジョン (約2回/1時間) |

▼成果と課題：東京オリンピック・パラリンピックの「公認プログラム」として、新たに「投票」という参加方法を取り入れ、順位を競い合うストーリー性があるアニメーション制作に挑戦。一人ひとりのキャラの魅力が活きた展開に、鑑賞者の反応も上々であった。一方で、プロジェクトの意義が伝わるような映像作品としてのクオリティ向上が課題に。その他、美術館との連携(特に広報)や、映像公開までを見据えた映像時間やスケジュール計画の必要性が確認された。



(3) 日本財団ミュージアム・オブ・トゥギャザー サーカス展 (受託事業)

日本財団 Diversity in the Art が2020年に開催を予定する事業に向けて、キュレーター、建築家、デザイナー、事務局のすべてに関与する「ラーニング」を担当。9月のキックオフイベント実施後は、2020年開催の展覧会に向けて、アクセスアートプログラムおよびボランティアマネジメントの企画・運営を担い準備作業中。

ミュージアム・オブ・トゥギャザー サーカス展 2020  
9/13(木)-17(月祝) 渋谷ヒカリエ 8/COURT

▼成果と課題：2017年度のラーニング企画運営により、NPOがもつ



問題意識や経験値を評価いただき協働者として選定いただいた。また登録ボランティアも60人超になり、これらの人たちがNPOの日常の活動に参画しはじめている。

2020年の展覧会は、出展作家50名、来場者10万人を迎える大規模展をめざすことから、ラーニング運営の体制検討をすすめてきた。結果、法人が実施してきた「みんなの美術館」「美術と手話プロジェクト」等とともに活動してきた梅田亜由美さんと平澤咲さんをコーディネーターに迎える。障害のある人と多彩な市民（ボランティア）が、展覧会までにスクール事業、アクティブラーニング、地域の学校等へのワークショップにでかけていく。



## 東北エリア

### （4）仙台市市民協働提案事業助成「ともにつくる、実験場。SHIRO Lab.」

障害のある人とデザイナーと企業が出会い、48時間デザインマラソンを通じて協働するプロジェクト。今年度は仙台市産業振興課からの受託事業となる。

プレイベント「障害のある人の表現の魅力をひきだすデザインの力@仙台」

7/14(土) THE6 3F ワークラウンジ、ゲスト：福島治さん（グラフィックデザイナー）

試合観戦&チーム顔合わせ：8/21(火) 楽天命パーク宮城

デザイン制作とプレゼンテーション：8/24(金)-25(土) 楽天命パーク宮城

参加者：35人(個人3名、福祉事業所4団体、デザイナー9名)

商品デビュー：11/23(金祝) 楽天命パーク宮城

▼3チームのアイデアを採択し、楽天ファン感謝祭で販売を開始。12月からは、楽天イーグルスグッズショップ エスパル仙台店、仙台駅東口店、楽天ウェブショップでも販売された。



### ▼成果と課題

地域で協働できるデザイナーやアーティストとの出会いは、3年を通して得た大きな財産である。施設とデザイナー、エイブルアートとデザイナーなど個々の活動が活発化している。

なお、本事業は2017年度から愛媛県、2018年度から岡山県に広がり、愛媛県ではコミュニティデザインに取り組むデザイン事務所が、岡山県ではハートアートおかやまが事業を担っている。行政と市民の協働事業として、ノウハウ移転を行った。

### （5）仙台市文化プログラム「SHIRO Atelier&Studio ーともにつくる芸術劇場ー」

仙台市市民文化事業団にアーツカウンシル機能の設置が準備された。2018-2020年の3年間の計画で「仙台市文化プログラム」が公表され、そのうち「障害のある人たちの文化芸術活動を支援・推進する文化プログラム」の公募があり、当法人の計画が採択された。

#### 1) 環境づくり(事業の公益化)：ネットワーク設置、情報交換、ワークショップ型勉強会の実施

##### ●ネットワーク会議(年2-3回)

- ・美術・演劇・舞踊・音楽・メディア芸術(映像・アニメ)など、既存の団体や事業の情報交換

- ・活動情報を収集し、段階的にウェブサイトに公開
- ・ワークショップ型勉強会で他都市の先駆的事例にかかわる人を講師として招聘

●スケジュール

- ・2019年度：ネットワーク会議と先駆的事例勉強会は継続的に実施。集めた情報はデータベース化し、ウェブサイトによる公開準備
- ・2020年度：集めた情報の公開

▼成果と課題：行政（県と市）、NPO、福祉施設、芸術文化関係者など、2回で45人が参加。これまでにないネットワークとして参加者から継続の声があがる。

2) 表現の場づくり(裾野拡大)：文化施設を活用した定期的なアトリエ&スタジオ事業

●スタジオ事業（年5～6回×2種）

●実施場所（候補）

- ・美術・メディア芸術（映像・アニメ）@せんだいメディアテーク/7階など

9/22(土)、10/20(土)、11/17(土)、12/15(土)、2/23(土)

せんだいメディアテーク 7F スタジオb

- ・演劇・舞踊・音楽@青年文化センター/パフォーマンス広場や練習室など

12/1(土) せんだい演劇工房 10-BOX box-5、

1/20(日) せんだい演劇工房 10-BOX box-5、

2/3(日) せんだいメディアテーク 1F オープンスクエア

SHIRO Atelier & Studio 振り返り会&人形劇ワークショップ

3/3(日) 青葉の風テラス

●参加者

障害のある人・ケアする人あわせて15～20名程度。障害の種別は問わない。

●ファシリテーターや制作スタッフ（候補）

在仙の若手を中心に、美術・メディア芸術（映像・アニメ）、演劇・舞踊・音楽、これまで関わっているアーティストにも適宜関わってもらう。

●インターン、ボランティア、ケアワーカー

インターン、ボランティアは活動をサポートする人で大学生や社会人など5名程度。未来のファシリテーターになる人材がここから生まれることも目標。ワーカーはアクセシビリティや心身面の相談役。

●スケジュール

- ・2019年度、2020年度：継続実施

▼成果と課題：アトリエの参加者は全5回135人（うち障害のある人56人）、スタジオの参加者は全5回で119人（うち障害のある人31人）。地域の文化施設で障害のある人もない人も広場の要に集う場、をコンセプトにした結果、若い世代の家族や発達障害のある人などの来場が目立った。ファシリテーターとして参加したアーティストからは、つまづきながらも協働の価値や創造の醍醐味を体験した様子がかがえ、今後の活動に関しても前向きな声があった。



3) 芸術作品の創造（才能の発掘育成）：芸術性、話題性、革新性、独創性をともなう作品の創造

文化芸術の対象領域は、美術・演劇・舞踊・音楽・メディア芸術（映像・アニメ）など多様な表現でジャンルも横断的に制作していく。

- ・2018年度：仙台・宮城における協働団体やアーティストをリサーチし、制作をすすめるための準備年

- ・2019年度：仙台・宮城における協働団体やアーティストを選定し制作
  - ・2020年度：クリエイションに取り組み、発表をする。国内の巡回も視野に入れて活動
- ▼成果と課題：実演家団体との議論、および財源の確保が必要なため、仙台市と協議が必要。

#### 4) 文化プログラムの評価と検証（社会的インパクト評価）：障害のある人たちの芸術文化活動に関するショウケースとシンポジウム開催

- ・仙台市内の新旧の団体や関係者が活動を紹介するショウケースを実施。障害のある人たち自身が仙台市内にある文化活動の機会を知り、楽しく体験し参加の意欲をひきだすような場をつくる。
- ・1) 2) 3) に関するシンポジウムを行い、評価と検証を行い、事業の改善や価値を引きだしていく。

##### ●スケジュール

- ・2018年度：2019年2月にシンポジウム 1) 2) の参加者による
- ・2019年度、2020年度：継続実施

▼成果と課題：「障害のある人と芸術文化の大見本市」せんだいメディアテーク1階オープンスクエア、2019/2/3（日）～2/6（水）を開催した。宮城県事業、および支援学級・学校の作品展示と同時開催としたことで、事業の内容および当法人の存在を知っていただくことができた。来場者は2,187人。

#### 実施体制

担当者：常勤1名、非常勤2名、ファシリテーターや制作スタッフ

活動の記録：一般社団法人NOOK

活動をサポートするインターン、ボランティア（大学生や社会人）5名、ケアサポーター2名

外部専門家アドバイザー：5名

（専門分野：美術・メディア芸術・演劇・舞踏・音楽分野から3名、施設相談員2名）

▼成果と課題：共催である仙台市、仙台市市民文化事業団の協力を得て、会場となる文化施設の優先使用、チラシの全小中学校配布を行うことができた。これにより、学校で情報を得た親子を中心に、今まで情報が届かなかった層に参加してもらうことができた。課題としては、表現の場づくりを中心に、助成金がなくても活動が自立できる環境を整えることが挙げられる。

#### (6) 「障害者芸術文化活動普及支援事業」（平成30年度より県1/2、国1/2の事業に）

●宮城県から公募され、当法人の企画が採択された。

期間：2018年6月～2019年3月 実施場所：宮城県内各所

障害者芸術活動支援センター@宮城の設置

- ①相談支援の窓口の設置（対象地域における相談支援）
- ②人材育成のための研修計画
- ③関係者のネットワークづくり
- ④参加型展示会・公演等の開催：東北6県との連携が必須となる模様

⑤協力委員会の設置

福祉・芸術文化・教育・市民活動セクター等の分野から協力委員を設置



「SOUPの研修2018」芸術文化活動の支援方法に関する研修（県南地域）

10/25(木) 宮城県亘理郡山元町 参加者18人

「SOUPの研修2018」芸術文化活動の支援方法に関する研修（県北地域）

11/15(木) 宮城県石巻市 参加者19人

「SOUPの研修2018」展示会のひらき方に関する研修

プログラムA「実践！伝えるための1・2・3！」12/6 せんだ





いメディアテーク 2F 会議室 参加者 34 人

プログラム B「実践！作品展示の 1・2・3！」12/6 宮城県美術館創作室 参加者 37 人

プログラム C「実践！これが作品展示の舞台裏！」

2/3(日)・2/6(水) せんだいメディアテーク 1F オープンスクエア 参加者 23 人・28 人

「SOUP の研修 2018」アートと著作権に関する研修

2/6(水) せんだいメディアテーク 1F オープンスクエア

参加者 18 人

障害のある人と芸術文化活動の大見本市

2/3(日)-6(水) せんだいメディアテーク 1F オープンスクエア

来場者 2,187 人



▼成果と課題：地域の固有のネットワークを活かし、圏域ごとに土壌をつくることをめざし、県南・県北地域にカウンターパートを設定して見学・研修を行った。また展示の方法等の研修を経て、各団体と協働で見本市を開催した。まだ関係を構築できていない圏域を訪問し、視察・ヒアリングしたことで、支援センターへの新たなニーズが浮かび上がったため、2019 年度以降はこの地域へのアプローチが必要。また、これまで関係が薄かった仙台市以外の学校との連携の必要性も挙げられる。

#### (7) その他

●せんだいメディアテーク「TRAC (Tohoku Research-based Art Center 東北リサーチとアートセンター)」へ参加(継続)

地域の文化・営みをリサーチし、その結果を作品に取り入れる活動を実施する。せんだいメディアテークから徒歩 10 分、仙台市が借り上げるビルに 3 つの団体がかかわる。震災後の記録をとる画家・映像作家等のグループ NOOK、3.11 オモイデアーカイブ、エイブルアート東北が、分野横断型の調査や制作を行う。

▼成果と課題：3 団体による協働企画「立ち上がりの技術 vol.4 とある窓」展に対するネットワークの提供、関連するワークショップの担当、また障害のある人たちの情報保障やアクセスに関するアドバイスや対応を行った。東北事務所は 9 月からこのセンター内に移動したことで、より芸術家たちとの協働の体制づくりや連携が進むと考えている。

● 仙台クラシックフェスティバル (9 月) における出展(継続)

仙台市で開催されるクラシックイベントに合わせ、商品を開発し販売する市場化プロジェクト。2013 年より、障害のある人や福祉施設職員とともに“クラシック音楽”をテーマとする商品を開発し、会場で販売する「ハチフオンフ」を出展。福祉施設が実践を通して、マーケティング・開発・販売・振り返りまでのプロセスを共有しネットワークを作る。

せんだいクラシックフェスティバル

9/28-30 日立システムズホール仙台



▼成果と課題：8 年継続したことで、東京や全国に広がるヒット商品も生まれた一方、マンネリ化した商品もあり、成果がはっきりわかれつつあるため、更なる学び&意識向上をはかる。特記として、みやぎ生協の生活文化部から被災地の手仕事の課題解決ワークショップの依頼があったため、この事業での成功事例をもとに講座を行った。障害のある人たちとの取り組み事例が、社会課題を抱えるコミュニティへのヒントや解決にいたることを実感した。

## ● Good Job!東北プロジェクト（案件ごとに助成金・受託）（継続）

東日本大震災以降の東北の活動支援事業として、デザインプロダクトの開発支援、人材育成事業、団体ごとのニーズに応じた支援活動を実施。2017年度より継続事業として、みんなで作る「にこま〜る」特定非営利活動法人奏海の杜（南三陸町）の支援活動。

▼成果と課題：NPOとして独自に取り組んできたことが、宮城県と仙台市と協働で事業を推進・継続する仕組みになりつつある。

## 7. 調査研究事業

障害のある人のアートを軸とする幅広いネットワークに、新たな人脈を取り入れ、新たな価値を創造し、社会に還元する自主事業「ネクスト・リンク・プロジェクト」を展開していく。



### （1）研究会事業（自主事業・助成事業）

「アートとソーシャルデザイン」研究会を継続、エイブル・アート・ジャパン事務局で開催。インターン（社会学）が主宰し、研究会の内容は逐次アーカイブしていく。

第5回 9/8(土)「ハンセン病の歴史から考える表現と社会の関係～障害者アートの可能性に寄せて」ゲスト：荒井裕樹

第6回 10/13(土)

「アートだからこそできること、アートにしかできないこと～社会学者と考える、社会の中のアート」ゲスト：北田暁大

第7回 11/10(土)「エイブル・アートのルーツを探る～たんぼぼ運動の1970年代史」ゲスト：上埜妙子

第8回 12/16(日)エイブル・アート・アワードは20年で何を残したか～第1回受賞作家と考える」ゲスト：光島貴之

会場：すべて A/A ギャラリー

▼成果と課題：「過去から見つける未来のヒント」と題して、2020年の盛り上がりの先を見据えて、障害とアートをめぐる営みは何を考えていけばいいのかという問いのもとで開催した。アーティスト、運動家、社会学者等を講師としたことで「普段とは違う角度から考えられたのが面白かった」という意見もいただいた。詳細はウェブ掲載のレポートを参照。

課題としては「得られたいくつかの“答え”を、研究会の外の人に伝えられているのか？」ということ。これは、アートミーツケア学会などにおいて伝えていけるのではないかと考える。また、前年度まで、実践者を招いての研究会では全4回で参加者100名超に対し、今年度は全4回で50名弱だった。より求められている問題設定や広報のあり方を検討していきたい。

### （2）米日カウンスル TOMODACHI イニシアチブ

東日本大震災以降に実施されている TOMODACHI イニシアチブに「エイブルアート・ネクスト - 福祉と芸術文化による社会起業家育成プログラム -」を提案中。

東日本大震災後、被災地のニーズに応じて新たにたちあげられた NPO のその支援領域は、障害福祉、高齢福祉、子ども支援、就業支援、避難者支援など多岐にわたりが複合的になっている。これら NPO のリーダーたちには、政策提言能力および社会起業家としての能力開発とその必要性が求められているため、東北3県（岩手・宮城・福島）から選出したリーダー10名と、米国西海岸地域から選出した NPO のリーダー10名とが、双方の国と地域を訪問し学びあう。

▼資金拠出団体の運用の方針変更により、日米カウンスルでその提案がとどまった。

### （3）その他

・アーツカウンスル東京（公益財団法人東京都歴史文化財団）が開催する「障害とパフォーマンスアート研究会」に参加し、積極的に情報交流を行う。

・エイブルアートの事業のうち、スタジオ事業、鑑賞事業、調査研究事業、マネジメント事務局の人材育成を目指して活動する（助成申請）。

▼パフォーミングアーツ研究会は、一旦終了。アーツカウンシル東京への助成申請は不採択。

## 8. 出版事業

2018年度はなし。既存の書籍は販売する。

## 9. 助成事業

### ● 第20回 エイブル・アート・アワード

スポンサー：花王ハートポケット倶楽部・花王株式会社、世田谷美術館さくら祭実行委員会、松田油絵具株式会社、ターナー色彩株式会社、株式会社フェリシモほか

▼一部予定していた企業からの拠出がなくなった。

▼選考会 10/16(火)

選考委員（50音順）

小林敬生さん（版画家/多摩美術大学名誉教授）

佐藤直子さん（横浜市民ギャラリーあざみ野学芸員）

真住貴子さん（国立新美術館主任研究員）



### ● 画材支援の部

作家も画材を選択しこだわりをもつようになりつつある。提供される画材（油絵の具・アクリル絵の具）と使用している画材とがミスマッチにならないような調整を行う。松田絵具賞は油絵具、ターナー色彩賞はアクリル絵の具。

▼受賞者は以下の通り

マツダ賞：杉上功（広島県広島市） 船橋聡美（奈良県香芝市）

ターナー色彩賞【個人】須田雄真（東京都）、NOBU（和歌山県和歌山市）

【団体】ボードレスアートスペースHAP（広島県広島市）、板屋学園このは（福岡県福岡市）



### ● 小さなアトリエ支援の部

アパレルメーカーのフェリシモとエイブルアート・カンパニーとの提携により、服1着購入で200円が積み立てられる「UNICOLART 基金」による支援。2015年度より新設した部門が4年目となり商品販売を継続するが、会社としての活動は終了し資金提供は2018年度まで。この仕組みをほかに展開する方法を検討する。

▼受賞者は以下の通り

絵画等教室「ほっとチョコレート」（和歌山県和歌山市）

### ● 展覧会支援の部

過去20年間で活動を支援してきたアーティストを訪問し、支援によって生まれた波及効果や現在の表現活動取材。簡易冊子を制作し配布する。

ギャラリー・グラフィカ bis、A/A gallery での展示とする。

エイブル・アート・アワード「展覧会支援の部」20周年記念展（連動企画・第50回企画）

12/17(月)-22(土) ギャラリー・グラフィカ bis

12/13(木)-23(日) A/A ギャラリー



▼成果と課題：18人の作家をリサーチ。エイブルアート関係者が、作家を訪問しインタビューを行う試みとした。すでに3の方が亡くなっており、作品の貸し借りやインタビューのあり方に労力がかかったが、長年、展覧会を支援してきた方や作家たちにも大きな再開の機会となった。記念誌はまだ制作途中である。



## 10. その他目的を達成するために必要な事業

### (1) ボランティア・インターンの受け入れ、事務局サポーターの設定

- ボランティア・インターンを積極的に受け入れ、事業の参画者をふやしていく。
  - 事務局サポーターを設定し、会員管理、データベース打ち込み、広報作業等を支援していただく。
- ▼成果と課題：自主自立の精神で活動するボランティア、インターンは年間を通して積極的に活動していただいた。総務部門を中心にした縁の下系ボランティア、プロジェクト内容に関心を持ち参画するボランティアなど合計10名ほどがコアメンバー。

### (2) Good Job! プロジェクトの協働

- Good Job!プロジェクトへは広報発信やネットワークの協力で今年度も継続。
  - 2017年度、オンラインショップ「Good Job!ストア」がリニューアルした。会員団体やネットワーク団体の商品力向上とともに、取引可能な状態になるまでをいかにサポートできるかが問われている。
- ▼成果と課題：アワードが休止し、全国の活動を把握する機会が減った。地方への情報共有や活動実践の波及などで連携したい。